

2022年3月期 第3四半期決算説明会

2022年1月28日
株式会社オリエンタルランド



本日の決算説明会内容

I. 決算概要

II. 通期業績予想の上方修正



I. 決算概要



1. 2022年3月期第3四半期におけるパークのオペレーションについて

	10月	11月	12月
入園者数の制限状況	「遊園地・テーマパークにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」*に沿ってソーシャルディスタンスを確保して運営 <small>*以下ガイドライン</small>		
	10/1～10/24 千葉県の段階的緩和措置に基づき制限	10/25～12/31 ガイドラインに沿って、ソーシャルディスタンスを確保できるキャパシティ上限まで徐々に入園者数を引き上げ	
イベント・プログラム	9/15～10/31 東京ディズニーリゾートのハロウィーン	11/9～12/25 東京ディズニーリゾートのクリスマス	
	9/4～2022/9/3 アニバーサリーイベント 「東京ディズニーシー20周年：タイム・トゥ・シャイン！」		
トピックス			
再開したプログラム	東京ディズニーランド「東京ディズニーランド・エレクトリカルパレード・ドリームライツ」 東京ディズニーランド、東京ディズニーシーの花火「ディズニー・ライト・ザ・ナイト」		
新たなチャレンジ	チケットの価格設定を2段階から4段階の価格帯に変更 東京ディズニーランド「ハロウィーンモーニング・パスポート」（¥13,000） アーリーエントリーチケット（¥3,000）のトライアル再開		

入園者数の緩和に合わせて、体験価値と売上に寄与する施策を徐々に再開



2. 第3四半期累計実績(前年同期比較)

(億円)

連結損益計算書	前年同期	実績	増減	増減率
売上高	1,371	1,903	531	38.8%
テーマパーク事業	1,091	1,490	398	36.5%
ホテル事業	221	343	121	55.0%
その他の事業	57	69	11	19.9%
営業利益(損失)	△ 198	△ 16	182	-
テーマパーク事業	△ 183	△ 51	132	-
ホテル事業	△ 3	43	46	-
その他の事業	△ 12	△ 10	1	-
経常利益(損失)	△ 218	△ 0	218	-
特別損失	133	-	△ 133	-
税金等調整前四半期純利益(純損失)	△ 351	△ 0	351	-
親会社株主に帰属する四半期純利益(純損失)	△ 287	△ 11	275	-

前期の第1四半期に臨時休園していたことなどから、売上高が増加し、営業損失が改善



3. 第3四半期会計期間実績(前年同期比較)

(億円)

連結損益計算書	前年同期	実績	増減	増減率
売上高	779	927	147	19.0%
テーマパーク事業	613	738	125	20.5%
ホテル事業	139	163	23	16.6%
その他の事業	26	25	△ 0	△ 3.0%
営業利益 (損失)	43	177	134	309.4%
テーマパーク事業	9	129	120	-
ホテル事業	32	48	15	46.3%
その他の事業	0	△ 0	△ 1	-
経常利益 (損失)	28	185	156	542.1%
税金等調整前四半期純利益 (純損失)	28	185	156	542.2%
親会社株主に帰属する四半期純利益 (純損失)	13	130	116	853.8%

当四半期会計期間では増収増益



3. 第3四半期会計期間実績(前年同期比較) – 主な増減要因

(億円)

テーマパーク事業 	前年同期	実績	増減	増減率
売上高	613	738	125	20.5%
営業利益 (損失)	9	129	120	-

売上高の増

入園者数およびゲスト1人当たり売上高の増

営業利益の増

(億円)

売上高の増		諸経費の増	△ 6
商品・飲食原価率の減	10	減価償却費の減	17
人件費の減	12	償却方法変更による減など	
前期と当期の雇用調整助成金*の受給差額	7		
準社員人件費の減	7		
その他	△ 2		

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

*雇用調整助成金の受給金額 (見込み受給金額含む)を営業費用から控除しています。

入園者数およびゲスト1人当たり売上高の増による売上高の増加により増収増益

3. 第3四半期会計期間実績(前年同期比較) – 主な増減要因

ホテル事業

(億円)

	前年同期	実績	増減	増減率
売上高	139	163	23	16.6%
ディズニーホテル	125	148	23	18.9%
その他ホテル	14	14	△ 0	△ 3.1%
営業利益 (損失)	32	48	15	46.3%

売上高の増

- ・客室販売数の増による宿泊収入の増

営業利益の増

- ・売上高の増

客室販売数の増加による宿泊収入の増加などにより、増収増益

その他の事業

(億円)

	前年同期	実績	増減	増減率
売上高	26	25	△ 0	△ 3.0%
営業利益 (損失)	0	△ 0	△ 1	-

売上高の減

- ・映画関連収入の減によるイクスピアリ事業の減
- ・乗降客数の増によるモノレール事業の増

営業損失の発生

- ・売上高の減など

モノレール事業が増収となったものの、イクスピアリ事業の減収により、ほぼ同様



4. 第3四半期累計実績(10月発表予想比較)

入園者数の制限について

	10月	11月	12月
業績予想の 前提	10/1~11/30		12/1~
	1日1パーク1万人		徐々に入園者数の 上限を引き上げ
▼			
実際の オペレーション	10/1~10/24	10/25~	
	1日1パーク1万人	10/25より徐々に入園者数の上限を引き上げ	

テーマパーク入園者数が予想を大幅に上回ったことなどにより、
売上高、営業利益ともに業績予想を上回った



Ⅱ．通期業績予想の上方修正

1. 通期業績予想の上方修正 — 前提

第3四半期実績が10月発表予想を大幅に上回ったことから、通期業績予想を上方修正する

第4四半期も引き続き、下記のガイドラインに沿った対策を講じることを前提とする

「遊園地・テーマパークにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」

(令和3年10月5日改定)

10月発表予想の前提

- ガイドラインによりソーシャルディスタンスの確保など、一定の制限は継続

修正予想の前提

- ガイドラインによりソーシャルディスタンスの確保など、一定の制限は継続
- **1月21日に発出された「まん延防止等重点措置」および千葉県からの協力要請に基づき入園者数を制限**

以上の前提の変更により、第4四半期の入園者数は10月発表予想を下回る見込み

まん延防止等重点措置が発出されたものの、
第3四半期実績が10月発表予想を大幅に上回ったため、通期業績予想を上方修正する



2. 通期修正予想(前期・10月発表予想比較)

(億円)

連結損益計算書	修正予想	前期実績	対前期 増減	対前期 増減率	10月予想	対10月予想 増減	対10月予想 増減率
売上高	2,619	1,705	913	53.6%	2,390	229	9.6%
テーマパーク事業	2,060	1,342	717	53.4%	1,854	206	11.1%
ホテル事業	463	286	177	62.0%	438	25	5.8%
その他の事業	94	76	18	23.8%	97	△ 2	△ 2.6%
営業利益 (損失)	△ 76	△ 459	383	-	△ 242	166	-
テーマパーク事業	△ 114	△ 419	305	-	△ 251	136	-
ホテル事業	49	△ 19	69	-	24	25	104.7%
その他の事業	△ 15	△ 23	8	-	△ 18	3	-
経常利益 (損失)	△ 62	△ 492	429	-	△ 228	166	-
特別損失	-	185	△ 185	-	-	-	-
税金等調整前当期純利益 (純損失)	△ 62	△ 678	615	-	△ 228	166	-
親会社株主に帰属する当期純利益 (純損失)	△ 58	△ 541	483	-	△ 175	116	-
テーマパーク関連情報	修正予想	前期実績	対前期 増減	対前期 増減率	10月予想	対10月予想 増減	対10月予想 増減率
入園者数 (万人)	1,150	756	394	52.1%	1,050	100	9.5%
ゲスト1人当たり売上高 (円)	14,637	13,642	995	7.3%	14,205	432	3.0%
チケット収入	7,023	6,538	485	7.4%	6,974	49	0.7%
商品販売収入	4,468	4,122	346	8.4%	4,165	303	7.3%
飲食販売収入	3,146	2,982	164	5.5%	3,066	80	2.6%

通期では売上高が増加し、営業損失が改善する見込み

2. 通期修正予想(10月発表予想比較) – 主な増減要因

テーマパーク事業①

	10月予想	修正予想	増減	増減率
売上高 (億円)	1,854	2,060	206	11.1%
入園者数 (万人)	1,050	1,150	100	9.5%
ゲスト1人当たり売上高 (円)	14,205	14,637	432	3.0%
チケット収入	6,974	7,023	49	0.7%
商品販売収入	4,165	4,468	303	7.3%
飲食販売収入	3,066	3,146	80	2.6%

入園者数の増

- ・第3四半期 入園者数の上限引き上げによる増
- ・第4四半期 まん延防止等重点措置の発出等による減

ゲスト1人当たり売上高の増

- ・チケット収入はほぼ同様
- ・商品販売収入の増
 - レギュラー商品の増
 - 食品などの減
- ・飲食販売収入の増
 - パーク運営時間延長による喫食機会の増
 - フードスーベニアの増

入園者数とゲスト1人あたり売上高が予想を大幅に上回ったことにより、
売上高が10月発表予想を上回る見込み

2. 通期修正予想(10月発表予想比較) - 主な増減要因

(億円)

テーマパーク事業②



	10月予想	修正予想	増減	増減率
売上高	1,854	2,060	206	11.1%
営業利益(損失)	△ 251	△ 114	136	-

営業損失の減

(億円)

売上高の増	
商品・飲食原価率の減	約20
人件費の増	約△ 10
雇用調整助成金*の受給差額	約△ 5
準社員人件費の増	約△ 5

諸経費の増

約△ 5


※減価償却費はほぼ同様

※コストにおける△表示は、営業損失に対する増加影響を示しています。
*雇用調整助成金の受給金額(見込み受給金額含む)を営業費用から控除しています。

売上高の増加により営業損失が改善

2. 通期修正予想(10月発表予想比較) - 主な増減要因

(億円)

ホテル事業 	10月予想	修正予想	増減	増減率
売上高	438	463	25	5.8%
ディズニーホテル	401	428	26	6.7%
その他ホテル	37	35	△ 1	△ 4.2%
営業利益 (損失)	24	49	25	104.7%

売上高の増

- ・ 客室販売数の増による宿泊収入の増

営業利益の増

- ・ 売上高の増

客室販売数が予想を上回ること
で、売上高、営業利益ともに10月発表予想を上回る

(億円)

その他の事業 	10月予想	修正予想	増減	増減率
売上高	97	94	△ 2	△ 2.6%
営業利益 (損失)	△ 18	△ 15	3	-

売上高は10月発表予想を下回るものの、コストの減少により営業損失は改善



Appendix



当四半期累計実績(前年同期比較) - 主な増減要因

(億円)

テーマパーク事業①

	前年同期	実績	増減	増減率
売上高	1,091	1,490	398	36.5%

テーマパーク関連情報

前年同期差異

主な増減要因

入園者数	上回った	前年同期の一部期間に臨時休園していたことによる増
ゲスト1人当たり売上高	上回った	
チケット収入	上回った	<ul style="list-style-type: none"> ・時間指定パスポートの価格変更による増 ・変動価格制による高価格帯チケットの構成比の増
商品販売収入	上回った	<ul style="list-style-type: none"> ・ダッフィー関連商品の増 ・東京ディズニーシー20周年関連商品の増
飲食販売収入	上回った	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ディズニーシー20周年関連メニューの増 ・フードスーベニア好調による増

前期の第1四半期、臨時休園していたことなどから増収
入園者数およびゲスト1人当たり売上高は、前年同期を上回る

当四半期累計実績(前年同期比較) - 主な増減要因

(億円)

テーマパーク事業② 	前年同期	実績	増減	増減率
売上高	1,091	1,490	398	36.5%
営業利益(損失)	△ 183	△ 51	132	-

営業損失の減

(億円)

売上高の増		諸経費の増	△ 16
商品・飲食原価率の減	24	前期の特別損失への振替	△ 32
人件費の増	△ 75	メンテナンス費用の減	6
前期の特別損失への振替	△ 106	その他	9
前期と当期の雇用調整助成金*の受給差額	23	減価償却費の増	△ 69
正社員人件費の増	△ 20	前期の特別損失への振替	△ 72
準社員人件費の減	30	その他	2
その他	△ 2		


※コストにおける△表示は、営業損失に対する増加影響を示しています。
*雇用調整助成金のうち、臨時休園起因を除いた受給金額(見込み受給金額含む)を営業費用から控除しています。

前期の特別損失への振替により各費用が増加したものの、
売上高の増加により営業損失が改善



当四半期累計実績(前年同期比較) - 主な増減要因

(億円)

ホテル事業 	前年同期	実績	増減	増減率
売上高	221	343	121	55.0%
ディズニーホテル	198	315	117	59.5%
その他ホテル	23	27	3	16.8%
営業利益 (損失)	△ 3	43	46	-


売上高の増

- ・前期の一部期間、臨時休館をしていたことによる宿泊収入の増

営業利益の増

- ・売上高の増
 - ・人件費の増 (△ 32億円) - 前期の特別損失への振替
 - ・減価償却費の増 (△ 6億円) - 前期の特別損失への振替
- ※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

前期の一部期間、臨時休館していたことにより増収、営業利益を計上

その他の事業 	前年同期	実績	増減	増減率
売上高	57	69	11	19.9%
営業利益 (損失)	△ 12	△ 10	1	-

売上高の増

- ・前期の一部期間、臨時休業していたことによるイクスピアリ事業の増
- ・前期の一部期間、テーマパークが臨時休園していたことによるモノレール事業の増

営業損失の減

- ・売上高の増など

イクスピアリ事業などの増収により、営業損失が改善



イベントカレンダー

2022年		
1月	2月	3月
<p>1/1~1/16 プログラム</p> <p>東京ディズニーリゾートのお正月</p>	<p>1/18~3/30 スペシャルイベント</p> <p>東京ディズニーリゾート「トータル・ミニーマウス」</p>	
<p>2021/9/4~2022/9/3 アニバーサリーイベント</p> <p>「東京ディズニーシー20周年：タイム・トゥ・シャイン！」</p>		

イベント・プログラム

トピックス

1月5日～	チケット販売スケジュールを変更（2カ月先の同日分のチケットを毎日販売）
1月6日～3月30日	「タワー・オブ・テラー“アンリミテッド”」を期間限定で実施

安全・安心を確保できる範囲でスペシャルイベントや施策を実施



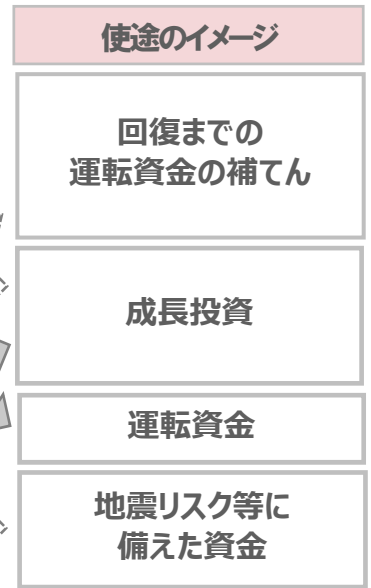
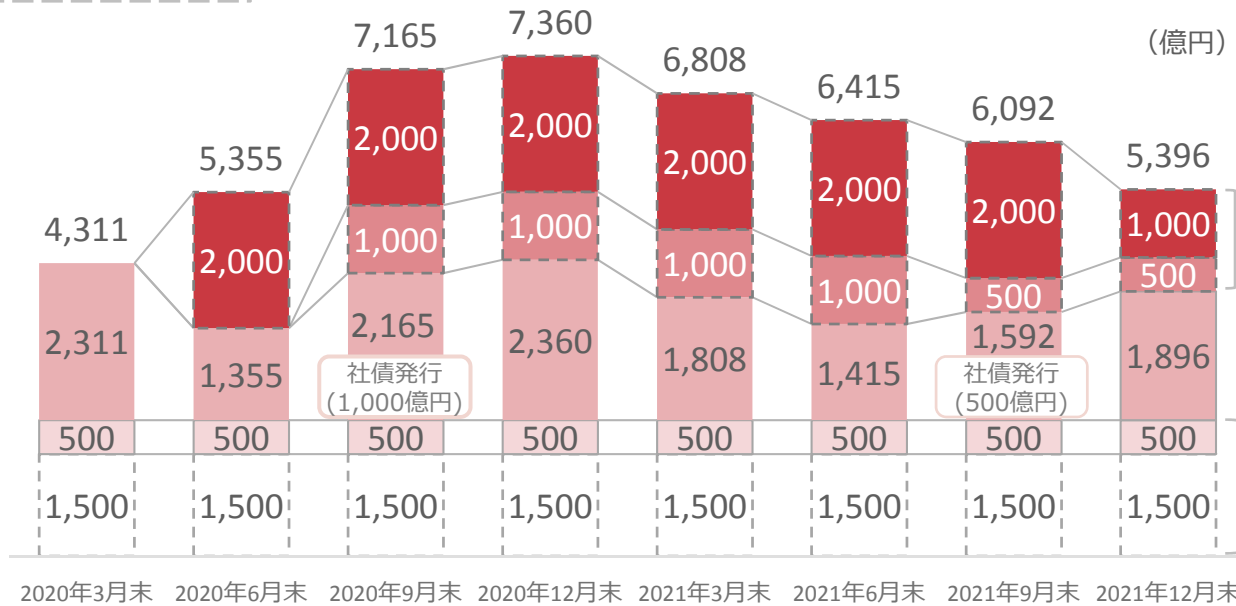
資金計画

手元資金*1の推移

コミットメントライン
社債（未発行）
現預金および有価証券
現預金および有価証券
地震リスクファイナンス

(2015年3月発行社債300億円、2020年9月発行社債1,000億円、2021年9月発行社債500億円含む)

(2019年1月発行社債)



連結BS計上額*2	2,811	1,855	2,665	2,860	2,308	1,915	2,092	2,396
-----------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

*1 コミットメントラインと社債（未発行）を含む *2 現金及び預金と有価証券の合計金額

社債の発行
(2022年1月20日) 設備投資資金への充当として、未発行の社債500億円のうち、300億円を発行



2021年3月期 入園者数の上限、営業時間、チケット価格の推移

		2021/3 1Q			2021/3 2Q			2021/3 3Q			2021/3 4Q		
		4-6月		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
入園者数	臨時休園	7/1~10/30					10/31~1/11			1/12~3/18			
		「遊園地・テーマパークにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に従って制限 (キャパの50%以下、ソーシャルディスタンス2m以上)					左記ガイドラインの緩和に沿って運営 (キャパの100%以下、 ソーシャルディスタンス1m以上)			政府から発出された緊急事態宣言および各自治体からの要請を踏まえ、各パーク原則5,000人以下に制限			
				3/19~3/31 緊急事態宣言解除により、 各パーク10,000人以下に制限									
運営時間	臨時休園	7/1~8/31		9/1~1/7					1/12~2/12	2/13~3/31			
		8~20時		9~21時					9~19時	10~19時			
				1/8~1/11 各自治体からの協力要請などを踏まえ、9~20時									
チケット価格 (大人1枚)	臨時休園	7/1~10/30入園分					10/31~1/11入園分			1/12~3/19入園分		3/20~4/19入園分	
		1デー		¥8,200			1デー		¥8,200	1デー	¥8,200	1デー	¥8,200/ ¥8,700
		11時~		¥7,300			10時30分~		¥7,700			10時30分~	¥7,700/ ¥8,200
		14時~		¥6,300			12時~		¥7,300			12時~	¥7,300/ ¥7,700

★変動価格制導入



株式会社オリエンタルランド 経理部IRグループ

047-305-2034 www.olc.co.jp

注意事項：

本資料は、OLCグループの業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料にて開示されているデータは、発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。当社グループの事業は、顧客嗜好・社会情勢・経済情勢等の影響を受けやすい特性を持っているため、本資料で述べられている予測や見通しには、不確実性が含まれていることをご承知おきください。

テーマパーク入園者数については単位未満を四捨五入、財務データについては単位未満を切り捨てて記載しています。

本資料の転載はご遠慮ください。